

戸倉上山田温泉まちづくり推進会議 設立総会資料

1 設立にあたって(趣旨)

かつては全国に名を轟かせた有名温泉地である信州戸倉上山田温泉は、団体から個人への旅行形態の変化や周辺の高速交通網の進展、最近では目に見えて進行する人口減少などの影響を大きく受けて活力を失いつつあります。

千曲市が発表する入湯客数を見てみましょう。昭和51年度の入湯客数を100とした場合、善光寺の御開帳で例年よりも賑わった令和4年度でさえ43にとどまっており、温泉観光地としての活力は失われるばかりです。

また、市民生活の面でも少子高齢化により若年層が大きく減少し、温泉地区内の高齢化率が45%を超える超高齢化社会へと変容してしまいました。さらに、人口減少に伴い地域における消費が減少し、商店の店じまいが後を絶たず、地域は買い物難民で溢れています。

こうした状況が放置されれば、多くの地元産業は疲弊しきって倒れ、通過する自動車が我が物顔に騒音をまき散らす、活力を無くした暮らしぶらいまちとなり、この地区の「消滅可能性」さえ現実のものとなっていくでしょう。

これまでに、生活や経済など、様々な側面に存在する問題を課題として把握し、解決していこうとする地域住民有志・団体が、まちづくりへの取り組みに挑戦してきましたが、そのたびに目指す将来像が描き切れず、先に進めなくなっていました。

長年の懸案であった県道大町麻績インター千曲線の改良が計画されていることをきっかけとして、中央通りの通過交通のコントロールから生み出せる新たな観光地・商業地の構築や、道路改良の影響を受ける温泉地区の住居エリアをより暮らしやすくするため、相互に関連した懸案課題の解決を、地域と行政(県、市)が一体となって取り組む大きなチャンスが巡ってきています。

この機会を逃さず、未来に夢を残せるまちづくり事業として「戸倉上山田温泉まちづくり推進会議」を新たに立ち上げて、まちの未来を形作る「グランドデザイン」を策定してまいります。

2 推進会議の運営体制

戸倉上山田温泉のまちづくりにあたり、生活者、事業者、行政運営の各視点で問題を把握し、解決策を協議して地域に関わる各主体の知恵と力を結集して理想のまちを実現していきます。

取り組む課題の選択や実施にあたっての方針、各主体間の調整等、重要案件の推進には、地域自治組織である温泉自治会(常会1～11区までを含む)を中心に、隣接する戸倉温泉区、旅館組合(連合会加盟の3団体)、飲食店組合、商店会、戸倉上山田商工会、社交業組合、温泉組合等の事業者組合、広く市内や周辺自治体で活動している市民団体、学校、観光局、警察、消防(署・団)、公共交通事業者、エネルギー供給事業者、文化・スポーツ団体、地域住民有志、議会議員、県、市等が、それぞれの立場で参画する「推進会議」を置き、最高決定機関とします。推進会議の全体にわたる意思決定に向けた個別具体的な各課題の調査・調整や研究を行うため、複数の「部会」を設置して、推進会議の活動を支える体制とします。

また、推進会議及び部会の業務推進に必要な連絡調整や会議等の運営、部会の各種活動に対する支援等を行う母体として、地元自治会と行政が連携して「事務局」を置き、必要な業務にあたるものとします。



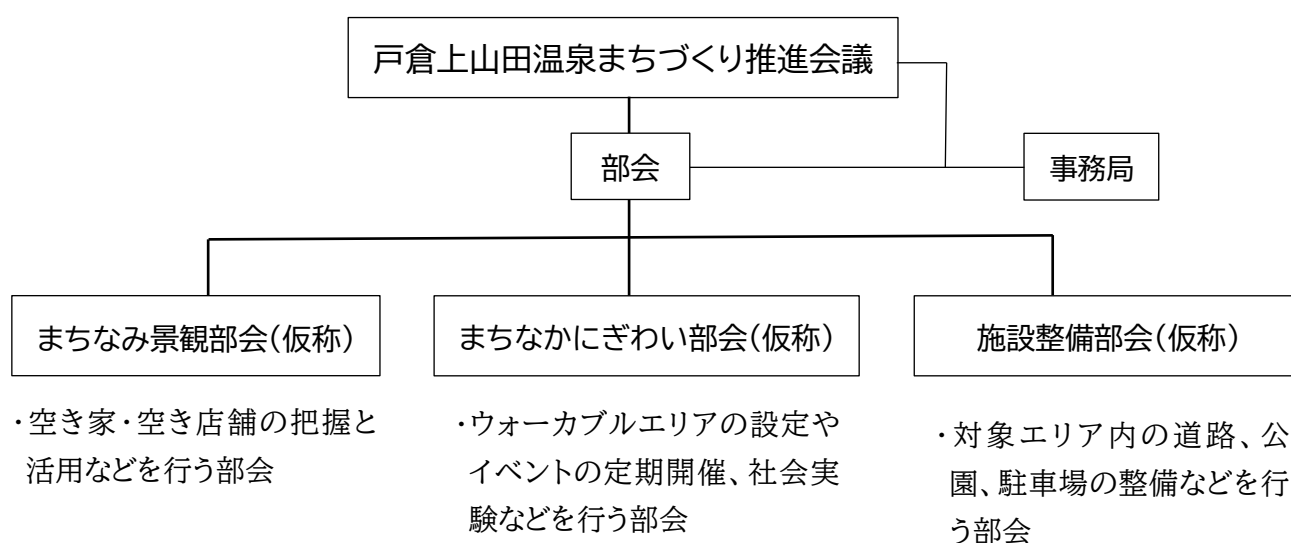
3 部会の設置

部会は、推進会議が取り扱う各種事業を選定し、その内容・性質の近似性等に合わせていくつかの上位テーマにまとめ、関係者や希望者を部会員として振り分けます。各部会は自律的に所掌の業務を進め、それぞれの部会の成果をまとめて推進会議に報告・提案等を行い、全体の意思決定を行う推進会議の業務を支えます。

現在、把握しているテーマ以外のものが出てきた場合は、最も近似性のある部会へ振り分けて対応します。また、設置済みの部会だけでは十分な対応が取れない重要案件が出てきた場合は、新たな部会を設置して検討を行います。

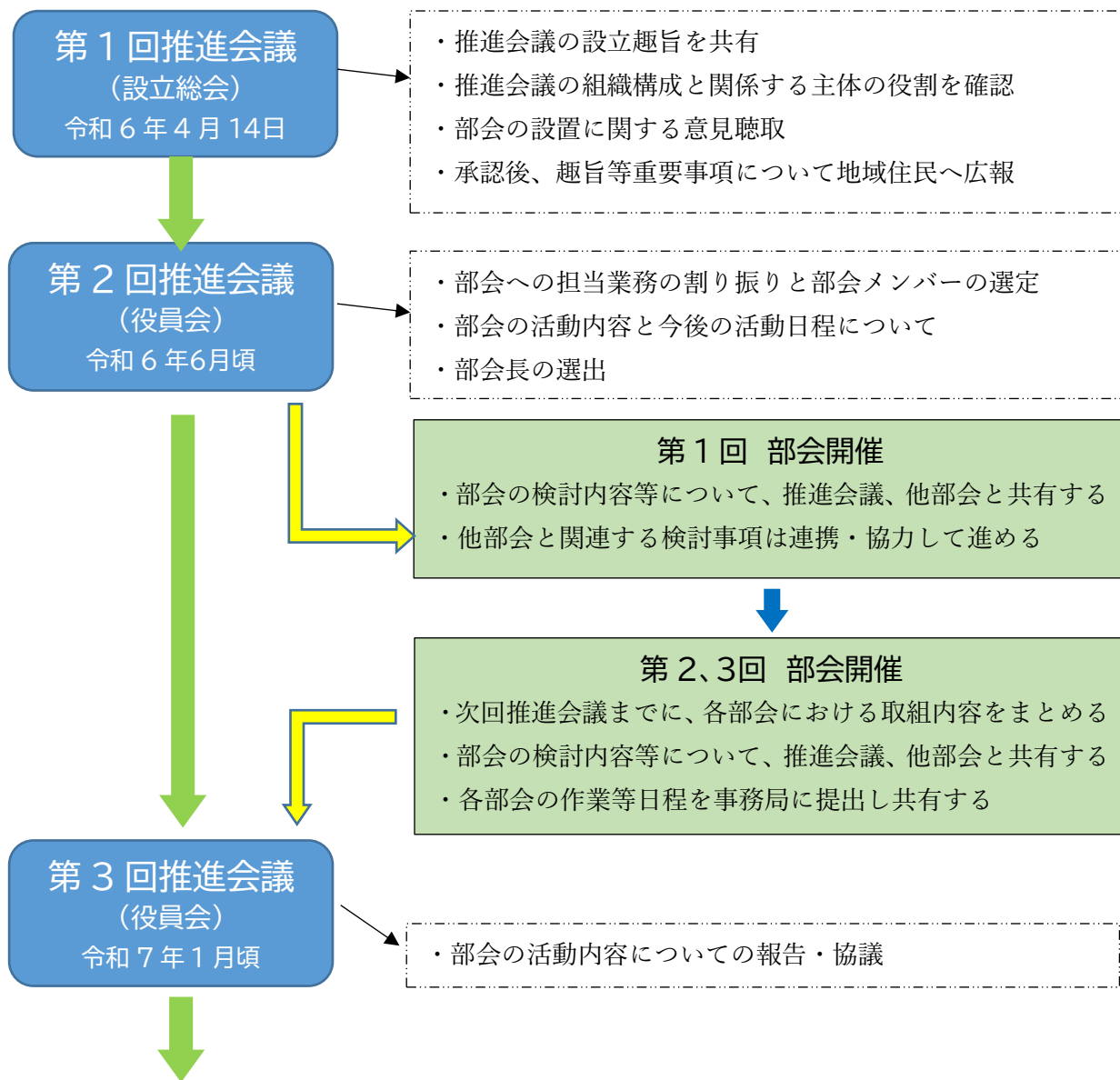
推進会議では、大きな予算を伴う県道整備だけを考えるのではなく、人口減少と高齢化率の上昇や、担い手が減る中での祭りなど地域行事や地区役員の担い手不足、買い物難民の増加、芸妓さんのなり手が無い中でのお座敷文化の衰退、通院・通学を支援する公共交通網の在り方、移住者にも優しい開かれたコミュニティづくり、地域内の野良猫問題など、さまざまな問題・課題を対象として取り扱います。必要に応じて部会を招集し、検討・研究の俎上に乗せて、スピーディーで的確なまちづくりにつなげます。

図1 推進会議の構成(案)

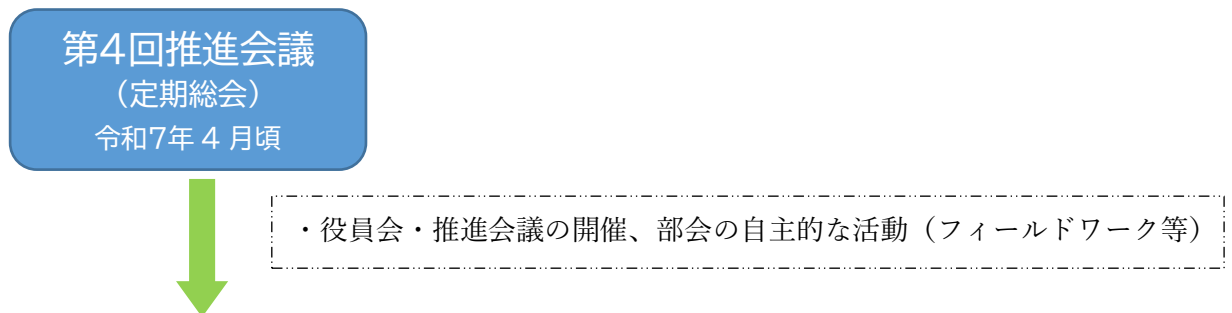


4 推進会議の運営スケジュール(予定)

令和 6 年度



令和 7 年度



令和 8 年度

